



リュウキュウアユが暮らす川(奄美大島)

雨の多い奄美大島の森には水源も多く、多種多様な水生生物が生息している。

© 常田 守

### 第4回 動植物

## 440もの絶滅危惧種が暮らす島々

脈々と受け継がれてきた  
貴重な自然を守るために

奄美群島には、その高温多湿な気候から、亜熱帯の森が茂るだけでなく、たくさんの方が流れています。そこに生息する魚は100種類以上。中でも、奄美の川を象徴する魚がリュウキュウアユです。  
リュウキュウアユは野生下では奄美大島にのみ生息する絶滅危惧種。100万年以上かけて独自の進化を遂げたといわれています。  
他にも、奄美大島のオオトラツグミ、

徳之島のオビトカゲモドキなど、奄美大島・徳之島だけで440種が絶滅危惧種に指定されています。この2つの島の世界遺産推薦区域は国土面積の0.04%に過ぎないにもかかわらず、日本の絶滅危惧種の9.5%が暮らしています。  
これらの希少な生き物たちが多く暮らす奄美では、今、ノネコなどの外来種による捕食や、交通事故による被害が問題となっており、対策が進められています。  
人のどのような行為が自然に悪影響を与えるのか、奄美の自然を守るために何ができるのか、一人ひとりが考えていくことが大切です。



1



3



2

1. オビトカゲモドキ：徳之島にのみ生息するヤモリの仲間。沖縄島にも近縁種が生息している。／ 2. 交通事故防止の看板：人にも動物にもやさしい運転を。／ 3. オオトラツグミ：奄美大島にのみ生息する国の天然記念物。夜明け前に澄んだ声でさえずる。